

中小企業の業況は、やや改善傾向にある。

山口商工会議所では、管内中小企業100社を対象に景況調査を実施し、このほど平成25年4～6月期の実績と平成25年7～9月期見通しについての調査結果（回答率85%）をまとめた。本調査は3ヶ月毎に年4回行う。

業況DI値について、前年同月の今期（平成25年4～6月）の状況を集計したところ、業況判断DIはマイナスではあるが、前回の悪化傾向から、今回は持ち直しの動きが見られた。

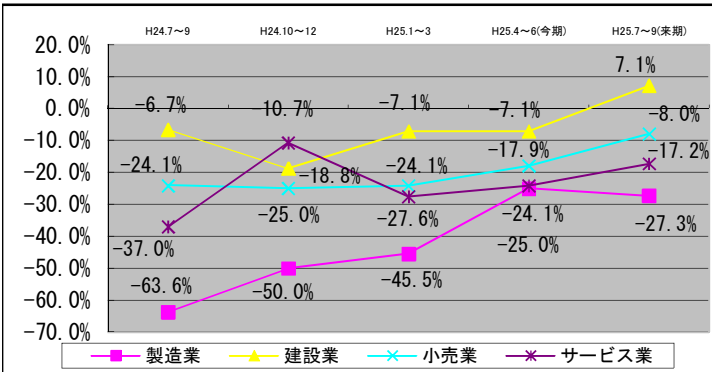
全業種のDI値に見る業況判断動向は、製造業：▲45%→▲25%、小売業：▲24%→▲18%、サービス業：▲28%→▲24%と3業種で改善傾向が見られた。製造業の売上・資金繰りDIの回復が顕著であったが、全体の従業員数は減少傾向にある。

新規設備投資について、今期中に設備投資を実施した企業は全体の19.5%、来期設備投資を計画する見通しである企業は19%と特に変化は見られない。また、今期の経営問題では、従前より上位にある需要の停滞に加え、消費者・製品・利用者ニーズへの変化の対応が多く挙げられている。今後、仕入・原材料の価格上昇が懸念される。

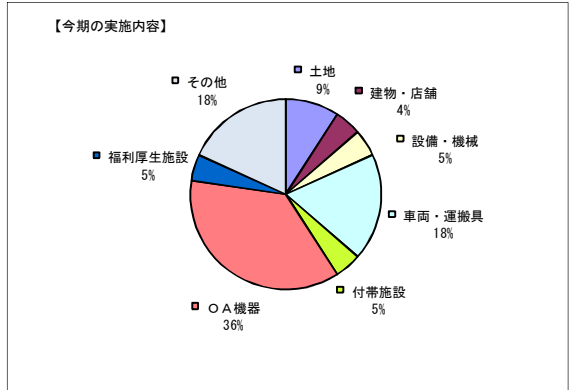
◆業況DI値（今期の状況）

	業況判断	前回調査比	売上	前回調査比	資金繰り	前回調査比	仕入単価	前回調査比	経常利益	前回調査比	従業員数	前回調査比
全産業	-20%	↗	-28%	↘	-16%	↗	19%	↗	-21%	↗	-5%	↘
製造業	-25%	↗	-17%	↗	-10%	↗	25%	↗	-33%	↗	-10%	→
建設業	-7%	→	-21%	↘	0%	↗	21%	↘	-21%	↘	0%	↘
小売業	-18%	↗	-25%	↗	-25%	↗	11%	↗	-25%	↗	-12%	↘
サービス業	-24%	↗	-34%	↘	-14%	↘	21%	↗	-10%	↗	0%	↘

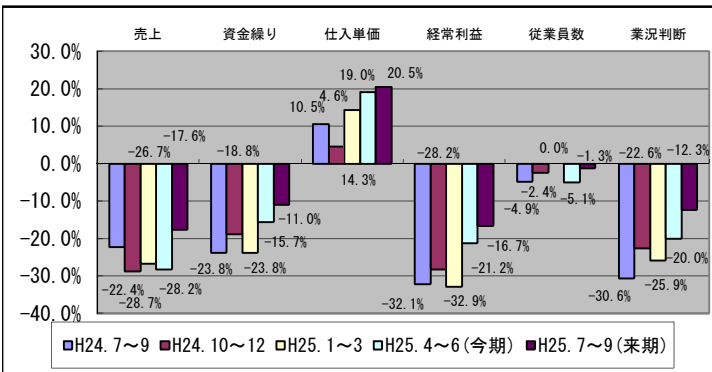
◆産業別業況判断DI（前3期からの推移と来期見通し）



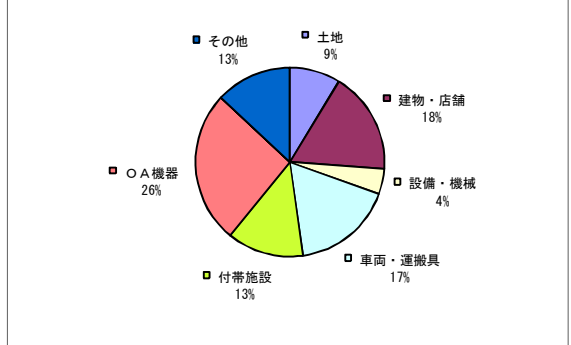
◆新規設備投資（今期実施・来期計画）



◆全産業DI項目別比較（前3期からの推移と来期見通し）



【来期の実施計画】



◆経営上の問題点

	製造業	建設業	小売業	サービス業
1位	原材料価格の上昇、需要の停滞 21.9%	民間需要の停滞 27.0%	購買力の他地域への流出、需要の停滞 17.1%	利用者ニーズの変化への対応 17.2%
2位	製品(加工)単価の低下・上昇難 18.8%	請負単価の低下・上昇難 21.6%	消費者ニーズの変化への対応 14.3%	需要の停滞 15.6%
3位	製品ニーズの変化への対応 9.4%	官公需要の停滞 18.9%	店舗の狭隘・老朽化 11.4%	店舗施設の狭隘・老朽化、従業員の確保難 9.4%

※DIとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示す。